

## 健康づくりをみんなで考える会（市民ワークショップ）

「健康日本21 清須計画（第2次）（中間評価）」および「清須市自殺対策計画」の推進のため、「ゆったりとした子育てを支援するために、何ができるのか」をテーマにワークショップを実施した。

1. 日時 令和元年10月21日（月）午前9時～11時30分

2. 場所 清須市役所 南館3階 大会議室

3. 参加者 市民27人（男2人、女25人）  
（30歳代1人、40歳代2人、50歳代3人、60歳代15人、70歳代5人、80歳代1人）

4. 講評 清須保健所 2人

5. 内容

（1）「健康日本21 清須計画（第2次）（中間評価）」および「清須市自殺対策計画」、清須市の子育てを取り巻く現状、子育てをする世代への支援について概要説明

（2）グループワーク

- ①「ゆったりとした気分で子育てができる人のイメージ」
- ②「わたしたちができること」

6. 結果（主な意見）

（1）計画について

- ・具体策が市民一人ひとりに伝わり、市民一人ひとりが実践できるとよい。
- ・アンテナを張っているので、発信してほしい。
- ・本人の生きる力をつけてほしい。

（2）グループワーク（A～Eグループに分かれて話し合い、発表）

①「ゆったりとした気分で子育てができる人のイメージ」

- ・夫、両親、友人等の周囲の協力がある
- ・相談ができる人、安心して話ができる人、弱音を聴いてくれる人がいる
- ・家事や育児、時間、経済的なゆとりがある
- ・自分のための時間がある、気分転換ができる、趣味がある
- ・笑顔がある
- ・健康である
- ・自分を大切にできる

②「わたしたちができること」

- ・あいさつをする、笑顔で声をかける。  
自分だけが頑張っているのではなく、それを見てくれている人がいると知るだけで嬉しい。
- ・困っているときにはそっと声をかける、冷たい視線を送らない、悩み事を聴く。
- ・地域でできるイベントの企画をする（ゆったりできるもの、町内会の行事で子どもや家族で参加できるもの）。
- ・情報を提供する（子育て支援センターや児童館、ファミサポの紹介、場所を具体的な地図で伝える、最初だけ連れて行く、元気になれる本やマンガ、映画などを勧める）。
- ・自らも支援センターや地区の活動に行く。
- ・保護者が健診を受診しやすいよう市の行事のあるときは子どもを預かる。
- ・SOSをいかにキャッチするか。  
1人で頑張ってしまうと、自分の負担が大きいことに気づかないのではないかと、それを周囲がいかに気づくか。

## 【各グループの話合い】



## 7. まとめ

「ゆったりとした子育てを支援するために、何ができるのか」をテーマに、ゆったりとした子育てをしている方のイメージと、そのためにできることを話し合った。地域特性があることに気づき、他の地区にも広めたいという意見や、笑顔で声かけやあいさつ、外出先の提供など現在行っていることを伝えたり、交流の重要性や具体的な支援者や利用できる事柄など、今後できることを継続したり取り入れる予定など聞くことができた。また、他団体も巻き込んでみてはどうかなどの案も出た。

今回は参加者全員が支援者側であったため、子育て世代の参加があると、より具体的に支援できる意見が出たのではないかと考える。

今回のワークショップにより地域の子育て支援につながったり、継続できたりすると良いと考える。

## 8. 講評

- ・市の呼びかけで、この健康づくりをみんなで考える会に集まるという暮らし方が素晴らしい。
- ・この会は、地域で活躍されている人の交流の場、情報交換の場になる。
- ・男性の視点からの意見もあり、地域環境づくりのグループワークが深まっていた。